

専念寺通信

四月号 (NO. 128)

<http://sennenji.s296.xrea.com/>

春がやって参りました。樹木の新しい芽がふくらみはじめ、新学期が始まり、会社には新入社員の人たちがそろそろ、明るい季節のはずだったのですが、私たちの国はかつてない規模の災害にみまわれ、まだまだ困難な中にあります。

☆ 東日本大震災

3月11日、宮城県沖を震源地とする非常に大きな地震が発生しました。みなさまはその日、どこにいらっしゃいましたか。そして、みなさまのご親戚、知り合いは災害にみまわれた地方にいらっしゃいますか。そしてその方たちはご無事でしょうか…。

東京でもずいぶん激しく大地が揺れました。高層ビルはゆらゆらと船が揺れるように揺れました。その後も余震が多く、震源地からかなり遠い関東地方でこれほどゆれるのだから、東北地方はどれほど大変なのだろうと思って報道を見て、地震後の津波の映像を目にしました。今度の地震では5メートルどころか、10メートル以上の大津波が私たちの国を襲いました。15メートルの防潮堤をも越えたいらしいということは、津波が去ってから分かりました。数え切れないほどの人が亡くなりました。数え切れないほどの、家が学校が病院が工場が会社が畑が、海に消えてしまいました。私たちは自然の持つ信じられない脅威に出会い、多くのたいせつないのちを失いました。災害が去ったあとに、原子力発電所のさまざまな不具合が判明しました。風の方向により、あちらへもこちらへも飛ぶ有害な放射性物質のあることを知りました。それは、地面にも、海にも流れていることが3月末にははっきりとしてきました。私たちは、第二次大戦以来、経験したことのない、たぶん世界の誰も経験したことのないできごとと直面しています。世界の国々で、この災害は

大きくとりあげられました。そして、そのつど、常に書かれていたことは、私たちの我慢強さと助けあいの精神と、災害をできるかぎり静かに受け止めようとする国民性です。信じられない光景を前に「泣き叫ぶ」人が映らないことに驚いた外国の人もありました。暴動や略奪がおこらないことに驚いた人もいました。テレビの画面で見ただけでなく、関東地方で直接、私共が耳にした経験も「何の縁もない人が助けてくれた」、や「深夜、5時間くらいかけて歩いて帰ったが、途中、夜中なのに開けている店があり、〈自由に休憩してトイレを使ってください〉と書いてあったので休ませてもらった」、「シャッターを閉めたJRの駅の前で、真夜中、ドアを開放しているビルがあり、折りたたみ椅子と毛布を貸してくれ最後は200人くらいの方がそこで夜を明かした」というものでした。この災害が私たちの国に与える目に見える被害はかなり大きいものになるでしょう。けれど、目に見えない私たちの力が、勇気や助けあいの気持ち、粘り強く、あきらめない精神が、きっと少しずつその被害をおおっていくでしょう。時間がかかっても私たちはきっと回復するでしょう。行方不明の方の捜索はまだ続いています。被災された方の傷がほんの少しでも薄らいで行きますように。できることを私たちもしましょう。亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

お彼岸の期間、「義捐金」の箱を大玄関に置きましたところ、1週間で7万1千円の義捐金が集まりました。彼岸明けの日に浄土宗東京教区を通して、日本赤十字社へ確かに届けさせていただきました。交通機関などの影響で、お墓参りの檀家さまは例年よりずっと少なかったのですが、みなさまのお気持ちの篤さに私共は胸がいっぱいになりました。どのようなかたちでもよいから、わけられるちからを分けて、今つらい思いをしている方たちとつらさをわかちあって生きていけたらと願っています。最後になりましたが、専念寺の被害は、墓石のいくつかが倒れたり、動いたりしましたが、本堂の阿弥陀様も、庫裏の屋根、塀、壁、すべて、おかげさまで無事でした。

みなさまの日々が平穏でありますように、そして被災者の方たちのちからになれる機会に少しでも多く恵まれますように、と祈願しつつ。

平成23年4月1日 大黒

